



新しい生活様式



理事 山口 千晴

今般新型コロナウイルス感染拡大により、ご逝去された方々に深い哀悼の意を捧げます。また入院加療中の方々には心よりお見舞い申し上げます。自身の感染の脅威の中で日夜治療に当たられている医療関係者の皆様には敬意と感謝の意を捧げます。社会的機能の維持管理業務に従事しておられる方、保育園、高齢者施設等福祉施設の職員の方々、本当にご苦労様です。

今年のお正月が明けた時にはこれほどのパンデミックになるとは思わなかった人が多くいたと思います。私もその一人です。著名人が入院後短期間に亡くなったという報道に驚き、感染症の恐ろしさに身がすくみました。当方、高齢者施設（ケアハウス・デイサービス）も運営しているため、なおさらでした。事態の深刻さは地震や台風のような自然災害のように目に見える形で迫ってくるものではなく、昨日と全く同じ風景の中での感染の拡大があるということでしょう。決定的な治療薬がまだなく、また予防ワクチンも開発が進行中ということも輪をかけているようです。このウィルスはまだどんな性格のものか完全には解明されていないようです。

緊急事態宣言の解除から一週間経ち、約3ヶ月にわたって休業した学校等も再開しました。東京都では「感染症防止と経済社会活動の両立を図ること」、「新しい日常」の確立を目指して4段階のロードマップを示しました。初めてこのコトバを聞いた時、「新しい日常（生活様式）」って何？と思いました。新型コロナウイルス感染症は完全な終息には時間が必要で、それまではウィルスと共生することになる、と理解しました。また「三密（密集 密閉 密接）」の状況をつくらないことも強調されています。

保育園も休園から再開しましたが、家庭保育が可能な日には家庭保育をお願いするということになっています。元来、保育活動はまさに三密そのものの状況の中で行われてきました。子どもは五感を使って他者とじゃれ合い、お互いを理解していくもの。心も体も他者との距離感が近く、その中で成長していく営みです。学齢前にこのようなコミュニケーション経験を十二分に積ませてあげたいものです。一方では子どもたちの健康と安全を確保する様々な手立てを講じることが必要になります。そのため時間の使い方や環境整備に知恵と工夫を発揮しなければならない場面が必ず出てくることでしょう。この状況、終息の出口がはっきりしない不安にかられることもありますが、自身のバランス感覚に沿って状況判断をしていくほかありません。

社会が変わるスピードが速く、その渦中にいる時はわかりませんが、何年か後、振り返ってみて、あの時が時代の転換点だったと気付くと思います。現在の「新しい生活様式」の数々のものの中でその時まで残っている日常の事柄が「新しい生活様式」として社会に受け入れられた規範・慣習になるのだと思います。

※執筆は6月1日現在です